

# 政策情報学コース

専攻分野：文化研究

## 現代社会演習

権 永詞 教授



本演習では、経済・政治・社会・行政・経営など社会科学が対象とする領域で生じている諸課題を社会学的な視点から読み解き、課題の性質とその解決の可能性を検討していく。「社会的にものをみる」とは、人と人、あるいは人とモノ、さらにはモノとモノとの関わりやつながりの形式という視点から物事を検討するということであり、生じている現象が経済的なものであれ政治的なものであれ、それが人の手によって行われているものであれば、この視点から分析・考察を行うことができる。その意味で現代社会理論が扱うテーマの幅は広く、受講者のこれまでの専攻や先修科目は特に問わない。

演習は、文献講読、研究報告、ディスカッションを中心に進める。関連授業として「フィールドワーク・調査研究法」「現代文化論」があるが、前者は理論的な検討の素材となるデータ収集の方法論について、後者は現代社会理論と並行する文化論的視点を理解するものである。

担当者はこれまで高齢社会における老年意識や、再帰的近代化論と呼ばれる社会理論についての研究を行ってきた。現在の関心は日本社会における自然体験の変容にあり、キャンプや登山、サーフィンといったアウトドア・アクティビティの広がりが、どのように人々の自然に対する振る舞い方や価値観に影響を与えているかを考察している。